令和５年２月 20 日

大阪府立柴島高等学校 第３回 学校運営協議会 議事録

１　会議日時　　令和５年２月 20 日（月）　15:00～17:00

２　開催場所　　大阪府立柴島高等学校　校長室

３　委員

	氏名	資格	所属	出欠
会長	森田　英嗣	学識経験者	大阪教育大学 教授	○
副会長	山本　了照	地域の関係者	大阪市立淡路中学校 校長	○
委員	戸田　和雄	その他の関係者	大阪府立柴島高等学校後援会 会長	×
委員	武田　　緑	地域の関係者	Demo（教育ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ・武田緑事務所）代表	○
委員	表西　貴文	地域の関係者	大阪市新大阪人権協会 評議員	○
委員	畑中　一美	保護者	大阪府立柴島高等学校ＰＴＡ 会長	○

４　事務局（学校側）

原田 信尚（教頭）　三輪 真嗣（首席）　内田 清彦（首席）　中川 智子（人権教育主担）
堀 博俊（事務長）　森田 正良（校長）

５　次第

○校長あいさつ
○会長あいさつ
○協議案件
・Ｒ４年度各校務分掌の年間総括について
・Ｒ４年度学校教育自己診断の結果について
・Ｒ４年度学校評価案について
・Ｒ５年度学校経営計画案について
・Ｒ５年度人権教育推進にかかわる年間方針案について
・その他

６　協議の概要

○Ｒ４年度各校務分掌の年間総括について（事務局）
＜教務・総務・生活指導・集団育成・進路指導・保健・自立支援・人権教育の順にポイントを説明＞
・カリキュラムに関しては、観点別評価の導入、働き方の観点からの選択科目の削減、通年認定の実施などの改変を進めてきた。様々な部分を合理的にしていくという一年になった。
・広報や中学校との連携について、今後もさらに頑張っていきたい。

・生活指導に関しては、身なりの指導をどうしていくかのかが課題。また、人間関係のトラブルも頻発している。
・「自分を語る」取組に一定の成果が出ている。生徒会についても、生徒の自主性がよく現れており、特に共生推進委員会の取組が活発化している。来年度の体育祭はホールでの実施を検討中。部活動の加入率が急減した。
・進路保障に関しては、最終結果はまだ出ていないが、やるべきことは頑張った。「スタディサプリ」については、自宅学習ベースで活用しきれていない。就職については、成果があがっている。
・自立支援コースに関しては、アミティエ教室を３Ｆに移し、教員も職員室に入ったことで、各学年との連携が強化された。生徒の感想等でも成果が確認できる。
・人権教育推進員会と各校務との連携、特に生活指導との連携ができたのが成果。規則は納得感のあるものをめざしたい。同和問題や多文化共生をはじめ、様々な人権学習に取組んできた。職員研修についても、いい雰囲気をつくることができた。地域連携については、今後も取組んでいきたい。

【質疑応答】

委員）校則はどこかで周知しているのか？

事務局）全生徒に配布している

委員）学年ごとに指導が異なっているのではないか。基準に照らして平等に見ているのか？

事務局）基準はぶれていない。教員の意識が全く同じかどうかは難しいところ。

委員）他学年の先生からは指導されないことがトラブルの発端になっているのではないか。基準を平準化しないと。

事務局）そのあたりは課題だと思っている。

委員）部活動の顧問による指導が難しい場合、外部の人材を入れることはしないのか？

事務局）部活動指導員など、外部人材の制度はある。

校長）府教育庁から「部活動大阪モデル」が示されている。今後、府立高校全体で、合同部活動が進んでいくと思われるが、混乱も予想される。

委員）中学校では、学生や社会人が指導にあたる制度がある。働き方改革と専門性の確保のためのものだが、生徒の気持ちや信頼関係の部分でトラブルが起こりやすい。メンタル面では、やはり顧問の先生というになってくる。

校長）顧問の存在は高校でも大事。一方で、このままで回っていくのかという問題もある。できるだけいい形を考えたい。

委員）学校教育から部活動が離れていくベクトルになっている。危機的な状況だ。

委員）子どもたちのことを置き去りにしてほしくない。働き方改革はわかるが、子どもたちのことを一番に考えてほしい。

委員）生徒間のトラブルについては、中学校も同様だ。不登校になる生徒もが１割以上おり、社会現象とも言える。高校でのトラブルの原因は？

事務局）インターネットの普及と対面での経験不足によるものと考えられる。

委員）ネットに写真をアップさせてのトラブルはないのか？

事務局）風景を撮るのが日常になっている

〇Ｒ４年度学校教育自己診断の結果について（校長）

・12 月に実施した学校教育自己診断の結果に基づいて分析したもの。

・「本校への満足度」「特色への理解」「ともに学びともに育つ教育」「総合学科の学び」「学校行事や生徒会活動」といった項目は、依然として高い数値を維持している。
・「多様性を尊重する人権教育と集団づくり」「進路実現に向けた取組や情報提供」「広報活動」「教職員の協力体制」「業務の効率化」などの項目は肯定率が上昇傾向にある。
・逆に、肯定率が低下しているものとしては、「施設設備関係」「地域との交流」「家庭学習」「部活動」といった項目が挙げられ、学校の課題と認識して、今後の取組に反映させていく必要がある。

【質疑応答】

委員）コロナ禍のため、「地域との交流」が低下しているのは仕方がない。それでも、例えば、地域のイベントに和太鼓部が出演しているのを見て、誇らしかった。昨今の状況の中でも、できることを考えてもらいたい。我々も協力する。

会長）「教職員の協力体制」が上昇しているのは大きなこと。これを強みとして活かしてほしい。以前、「学校裏サイト」の調査に携わったことがあるが、柴島高校の「裏サイト」では参加者が人権を大切にする態度でコミュニケーションをとっていたことが判明し、嬉しく思えた。人権教育を基盤とした教育課程を引き続き持続させてほしい。

○Ｒ４年度学校評価案について（校長）

・年度当初に示した評価指標に基づき、自己診断を落し込んで、評価した。
・学力育成に関しては、家庭学習が課題。
・人権教育や共生教育の面では概ね指標を上回っている。
・働き方改革については、長時間勤務の解消はなかなか難しいが、教員のストレスチェックから同僚性の部分で改善されていることがわかる。

【質疑応答】

委員）部活動については、次年度の方針にどう反映させていくかが重要だ。

委員）生徒の声をしっかり聞いてほしい。顧問との信頼関係がなくなると、一気に崩れる。

事務局）過去の勤務校において、顧問の転勤に伴い生徒が入部しなくなった例もあった。

委員）コミュニティーとしてのあり方が問題だ。

事務局）方法はわかっているが、負担が大き過ぎる。いずれにせよ、部活動は過渡期を迎えている。

委員）より良い方向で進めていただきたい。

委員）教職員じゃないけど協力したいという人たちに何ができるのか？

事務局）50 周年もあるので、そういったところでお願いできたらと考えている。

○Ｒ５年度学校経営計画案について（校長）

・昨年度から今年度にかけて大きく変えたので、来年度はこれを踏襲したい。働き方改革のところで指標を少し変えている。

【質疑応答】　なし

○Ｒ５年度人権教育推進にかかわる年間方針案について（事務局）

・担当者の感覚に任せるのではなく、共通認識に基づいた取組を進め、理解を深める必要がある。
・人権教育のパイオニア校として、本校の実践を広く発信していきたい。
・基本的人権が尊重された教育活動を展開していくことが重要。特に、生徒、保護者、教員が納得した指導を行いたい。

・教職員研修については、同和問題研修に力を入れていきたい。

【質疑応答】

委員）学力の問題については、何をするのか。タブレット等で課題を提出させたりしているのか？

事務局）授業によっては、そうしている。

委員）家庭学習においては？

校長）「スタディサプリ」もあまり活用できていないが、せっかく導入しているので、いろいろ考えられると思う。

事務局）一人一台端末自体はよく活用されている。

委員）先生方のナレッジマネジメントの部分について、生徒にも共有してほしい。

○１年間をふりかえって

会長）柴島高校は対話を重視しており、世界に誇れる実践である。対話ができないと力を合わせることができない。これからの実践にも期待したい。

委員）柴島高校とは 20 年の付合いになるが、「ザ・柴島」というべきものが脈々と取組まれている。

委員）ＰＴＡ会長として学校運営協議会に参加させてもらい、学校のことをよく理解することができた。意見を真摯に受止めてくれる姿勢がありがたかった。子どもを入学させてよかった。

委員）学校教育全体が変わっていく中で、柴島高校は今まで大事にしてきたことを大事にし続けながら、さらにアップデートしている。今後もできることがあれば協力したい。

○まとめのあいさつ

校長）委員のみなさんから貴重な意見をいただきながらやってきた。大変感謝している。

会長）これからもぜひ対話を大事にやっていきたい。